

# 組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名： **三朝医療センター**

部局長名： **光延 文裕**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>①-1 目標</b> 独立行政法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センターおよび大学院保健学研究科との共同研究を進展させるとともに、低線量放射線環境安全・安心工学研究教育において、当該分野に精通した技術者・研究者・医療従事者の育成を目指す。	独立行政法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センターおよび大学院保健学研究科との共同研究(極微量ウラン影響効果試験)を継続した。また、三朝医療センター廃止後も、共同研究は継続することとなった。
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>②研究領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>②-1 目標</b>	/
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>③-1 目標</b> 1. 外来診療のみではあるが、鳥取県中部地域において、入院機能補完のための実効性のある病病連携・病診連携を確立し、老年期疾患(呼吸器疾患、消化器疾患、骨・関節疾患、生活習慣病など)を対象とした地域医療の質の向上を図る。 2. チーム医療の積極的取り組みを行うことによって、発展性のある外来診療体制を確立し、患者の生活の質中心の医療に心がけ、高齢者にとってより安全・安心な医療の提供に努める。 3. 平成24年度より三朝町と共同で開始した「ラドン温泉鉱泥湿布施設活用事業」を継続・推進する。その中で、「鉱泥湿布無料体験」者の更なる増加を図ることによって、外来患者の増加につなげる。温泉療法を活用することによって、より多くの人々の健康増進に寄与するとともに、地域活性化および病院経営改善への貢献に努める。	1. 老年期疾患の中で、特に慢性呼吸器疾患および肝疾患において、鳥取県中部地域では中心的役割を担った。また、平成28年1月には三朝地域医療支援寄付講座が、三朝温泉病院内に開設され、地域の医療を継続することとなった。 2. 院内関連部署で話し合いを繰り返し行い、外来診療体制の再構築を行った。また、患者のQOL(生活の質)向上に努めるため、第113回日本内科学会中国地方会、第54回日本呼吸器学会中国・四国地方会、鳥取県中部医師会学術講演会などの学会や講演会へ積極的に参加した。 3. 三朝町と「ラドン温泉鉱泥湿布施設活用事業」の事業委託の契約を締結し、鉱泥湿布無料体験を閉院する12月末まで実施し、体験者は1,413名(昨年度1,827名)であった。
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> ・患者満足度アンケートの満足度向上(満足度90%以上) ・「鉱泥湿布無料体験」の利用数	
<b>【総括記述欄】</b>	
<small>※管理・運営面についても検証した上で、今年度の達成状況を総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。</small> 三朝医療センターは、組織運営の見直しにより、平成27年12月末で閉院し、平成28年3月末をもって廃止することが、平成27年6月の役員会で決定した。閉院にあたっては、平成27年7月に院内掲示で外来診療の終了を患者へ周知し、三朝地域医療支援寄付講座や希望する病院へ紹介状を作成した。廃止にあたっては、医療機器や物品などを、本院への移管や売却により処分するとともに、廃止に係る関係機関への届出などの事務手続きを行った。また、閉院の情報提供は、三朝町の広報誌やホームページなどで速やかに行い、平成28年2月には閉院記念式典を実施した。	